

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	なまいきの認識
Author(s)	山田, 貴洋子 [ほか]
Citation	児童の言語生態研究 , 12 : 26 - 31
Issue Date	1985-05-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045132
Right	
Relation	



なまいきの認識

山田貴洋子ほか

1. 授業案

一、日時 昭和五十九年八月十一日

(土) 午前九時四十五分～

十時三十分

二、児童

静岡県田方郡菰山町

菰山町立菰山小学校

第四学年一組(山田級)

男子七名、女子九名、計十

六名

三、領域 構え(崩壊と構築)

四、授業形態 児童の言語生態研究会

会員によるティームティー

チング

五、授業テーマ なまいきの認識(一

時間扱)

六、授業テーマ設定の理由

①なまいきは、子どもたちの本来の姿である。それは、子どもたちが一生懸命に生きている姿にほかならないからである。だが、一般的にはこうした子どもの生きている姿を結果としてだけとらえて、なまいきは悪いというふうに変えがちである。

だが、子どもにとって、その結果としてのなまいきは問題なのでなく、そのなまいきを発動させているところの動機が問題なのである。

なまいきは、子どもの生きていく力にほかならない。なまいきをやるうと思っただけでいるわけではなく、こうでしか生きられないという生きざまがなまいきとなって現われるのである。ただこうしか考えられないということとは、一種のこだわりが存在し、他から見ると、どうしても不完全な未熟な無理をしている姿にうつる。しかし、こういう、その子なりの段階をいくつか経ることに、子どもは大人へのステップをその子なりに一步一步、歩んでいくのである。

ところが、今の子どもたちは、大人の側から見たなまいきを意識してしまい、生意気は悪いものであるというふうに変えている傾向がある。なまいきを自分自身の生きざまであるというふうに変えてはいない。

②そこで、今回の授業は、なまいきを生きざま(具体的には、①の『こうでしか……いくのである。』を指す。)としてとらえ直し、当該児童のこうしか生きられない限界としての精一杯の知恵と、そのために却って示される言い足りていない主張を肯定的に聞き届けてやることを目的とする。限界を自覚させることよって再出発が約束されると考えるからである。

③ここで採り上げた「海とうなぎ」(小川国夫作)という教材には、ツネと浩という子どもが登場する。ツネの下心を読みつつ、そのツネの知的なるが故の生意気さと浩の追いつめられた感情処理のしたたかな生きざまを、子どもたちがどれだけなまいきとして認識できるか、それを見るためにこの教材を使用する。

七、本時の目標

生意気を動機づけているものを考え、生きざまとしてとらえることができるようにする。

八、本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1、生意気について勉強することを確認する。	○ 本時のねらいの確認
「今日は生意気ということについて考えます。」	○ 今までの生意気に対する概念をくずし、生きざまそれ自体が生意気であることを確認する。
2、「生意気」を定義づける	
「生意気の意味づけをしてください。」	
3、定義づけた生意気のパターン化をする。	○ 生意気の生きざまをパターン化する。 ④現状維持で

「みんなが考えた生意氣をまとめてみましょう。」

はなく現状改善である。

②自分なりの態度や意見を持つ。

③虚勢をはる。

※ 生きざまの中味としては、未熟・不完全で無理をしている姿である。その姿を肯定的に聞き届けていく。

○ 生きざまの限界が、生意氣の要因であることをおさえる。

4、パターン化したものすべつの中を考えられる生意氣の指標（動機づけ）を考える。
「まとめたところから、生意氣の源（動機づけ）にるところを考えましょう。」
5、ツネの生意氣

○ 生意氣の認

氣を見つけ

「さあ、生意氣の源が分かったので、次のテープのお話を聞いて、ツネの生意氣の出ているところを一か所だけさがしましょう。」

「なぜ、この言葉が、ツネにとっての生意氣なのか。」

6、他に生意氣がないか見つける。

「応用問題をやってみよう。もう一度、テープを聞いてもらって、今度は、浩の生意氣を一つだけさがしてみよう。」

○ 「何かをい

識変革ができたかということを確認する。

○ 「なんで柚木さんにやるだよあ。」をさがさせる。

ツネの生意氣の跡づけをする。

○ さらに応用して、他に限界として生き

生きざまの出ている浩の生意氣を見つけないかと、ツネとはちがう生きざまの限界の認識がで

ない、と思っ

7、ツネとヒロの生意氣（生きざま）のちがいが分かる。

「さあ、ここまできたので、ツネと浩の生意氣くらべをしてみよう。どこがちがうか考えましょう。」

九、評価

生意氣の意識変革ができたか。

教材

海とうなぎ

小川国夫

小学校からの帰り道だった。ツネと浩は、質屋の前の川で、うなぎを見つけた。

大きいうなぎが川のまん中じつと流れているのを見ていた。

浩が、「つかまえてよ。」と聞いた。ツネが、「どうするだよ。」と聞いた。「川へ入って、うなぎをつかまえて

道へほうらあ。」
「だめだよ。それより兄ちゃんを呼んで来ませ。」
浩は、「うん。」といって、ランドセルを、ツネに持たせると、学校へかきもどった。

彼は、学校を出て来る時、前庭の水まきをしていたツネの兄を見たのを、思い出した。

ツネといっしょになったのは、それから後、道々だった。

浩にうなぎがいることをいわれると、

浜司は「おらは行かあ。」といった。いっしょに水まきをしていた二・三人が、当番中に行つてはいけな、といった。

浩はその人たちに「うなぎがいるんだよ。」といって、太さを指で作って見せた。

みんな校門を出て、かけてきた。うなぎは、もとの場所にいた。ツネは一人の間中うなぎから目をはなさなかつた。

浜司は遠くの方で水に入つて、うなぎに近づいていった。つかまえて路上にほうり上げた。

浜司たちは学校へもどった。浩とツネは大きいかんづめのあきかんに、うなぎを押しこんで、めくれているふたを持って、帰った。

自分の家へ着くと、

ツネは、「ここへ置いてってよ。」と
いった。

浩は、「うん。」といって、二人でし
ばらくバケツに移しかえたらうなぎを見
ていた。

浩が去った。

浜司が帰って来て、うなぎをのぞい
て、「フン。」といった。

そして、どこかへ遊びに行った。

母親が工場から帰って来た。父親が
帰って来た。げんかんに置いてあつた
うなぎを見て、「これか。」といった。

柚木さんの浩さんが、学校帰りに、
浜司といっしょにつかまえたんだっ
て。」と母親にいった。

ツネは、「兄ちゃんがつかまえたの
よ。」といった。父親と母親と話して
いた。

「焼いて あしたおれが柚木さんへ持
って来て……。」

ツネは、「とっちゃん、浜ちゃんが
水まきをやめてつかまえたもんで、つ
かまえたのよ。」

父親は、「そうか。」といった。

ツネは、「浜ちゃんが帰って来れば
わかるよ。」といった。

「ツネ、タバコを買って来い、ほれ、
ゼニ。」といって、父親はむすめに八錢
やった。

ツネは、げんかんへ行つて、うなぎ
をのぞいた。うなぎは、バケツの底に
丸くなると、尾と頭が重なっていた。

頭を尾ひれのかげへ入れて、息をして
いるようだった。

ツネはそれをしばらく見ていて「な
んで柚木さんへやるだやあ。」といっ
た。

父親は、「子どもは、だまってろ…
…」といった。

母親は、「ええに、やりやせんに。」
といった。

父親は、「なに、やるだよ。」といった。
ツネは、これはだめだ、と思った。
うなぎは柚木さんへ持っていかれるの
だ。

ツネは、たばこ屋からの帰り道で、
浩に会った。

「ヒロちゃん、とっちゃんが、うなぎ
をヒロちゃんへ持って行くって…
…。焼いて。」

「おら、いらぬいんだけど……。」
「でも、ヒロちゃんのお父さんが好き
ずら。」

「うん、好きだよ。」

「ヒロちゃんは、浜ちゃんといっしょ
にうなぎをつかまえたって、家の人に
いったの。」

浩は「うん。」と、声を小さくして
答えた。

ツネが「それはうそだけださ……。」
といった。

浩は、何かいわなければならぬ、
と思った。

「あした土曜ずら。自転車へ乗せて、
焼津へつれて行ってやらあ。」

「焼津へ……。海まで行くの……。」

「うん、川尻まで行くかもしれん。大
井川が海へ出るとこだ。」

「何時間くらい自転車へ乗ってるの…
…。」

「うん、そりゃ五時間くらいだ。」

2. 授業記録

Tt まず、いちばんはじめに、こうい
うことをやってみましょう。「病氣
とは」例えば、「病氣とは元氣のな
いことを言うのである。」「病氣と
は一日中ふとんの中でねていること
である。」

はい、他にどんな言つてごら
ん。 君は今、病氣か。

ううん。 君は今、病氣か。
ちがうな。じゃ、何て言つたらい
い？

C1 ぼくは、病氣ではない。
Tt 「病氣とは、今のぼくではない。」

だな。はい、他に、「病氣とは、こ
ういうことである。」(出ない。)

じゃ、もっと簡単なこといこう

か。「学校とは」

C4 勉強する所である。

Tt 君は、勉強だけかしないんだ
な。(笑)

だけど、そうだな勉強する所だな。

C2 みんなと仲良くする所。

Tt 「みんなと仲良くする所である」

C3 「学校とは、めんどくさい所
である。」(笑)

Tt じゃ、もう一つ出すよ。「お母さ
んとは。」

C5 「お母さんとは、よくはたらく
人である。」

Tt はい、他に。(出ない。)

じゃあね。山田先生がいるね。

「山田先生とは。」

C1 ぼくらのたくさんある人である。

(笑)

Tt ぼくろばかりね。他には、「山
田先生とは。」

今ね、みんな山田先生のからだの
ことしか考えてないでしょ。心の
も考えてよ。「山田先生とは、こうい
う気もちなんだ。きつところだよ。」

C6 山田先生は、鬼である。

(笑)

Tt はい、他に。

C7 山田先生は、ひょうきんである

る。(笑)

Tt そうそう、そういうふうにとん

ん言ってごらん。

さて、これからやりますよ。「なまいきとは。」「なまいきって言うのは、こういうことである。」

C7 いばること。

Tt 「なまいきとは、いばることである。」はい、他に。

C3 いやなこと。

Tt いやなこと……、いやなことを言う？いやなことなんだね。まだ他にもありそうだよ。

(自分がなまいきだと思う人、まわりになまいきだと思う人がいるか、など考えさせる。)

Ty 何故、みんなは弟や妹のことをなまいきだと思ったりするのか。

Tt 自分がなまいきだと言われる時は、どんな時かな。

C6 だまれ。

Tt だまれ？だれに？

C6 おにいちゃん。

Ty おにいちゃんに、「だまれ。」って言った時にね。

Tu 「なまいきとは、だまれと言われることである。」「こういえばいいな。弟や妹がいる人は、どうした時になまいきだと言うのかな。」

C7 (出ない。指名する。)

Ty そうだね。呼びつけられる時。

時。

C14 命令される時。

C12 文句を言う。

C14 呼びつけられる。

C5 何か言った時、そのことに対して、さからう。

C3 なまいきな時。

Tu たった二つしかなかったのが一べんにあれだけ増えるのよ。

(子どもの意見を「である。」式にして一つ一つ確認する。)

Tt 今まで、弟とか、おにいちゃんのことを考えて来たけど、友だちのことを言ってもいいよ。あいつ、なまいきだっと思っててる子が必ずいると思う。いない子なんて一人もいないと思うよ。どんなことが、どんな所がなまいきか、名前を言わないで言うてごらん。(出ない。)

C1 みんなでやることなのに、勝手にどんどん一人でやったりする時に、なまいきかと思う。

C17 ひとりじめする。

Tt まだ、出そうだな。

C5 ちよっとしたこと、いやみを言う時。

C3 勝負で負けた時。

Tt どちらが。

C3 自分が。

Tt 自分が負けた時、相手をなまいきだと思うんだな。はい、他に。

C17 ことをまちがえた人に、むきになって「なんで。」という。

Tt 言い方ね。言い方が出て来たよ。

はい。もうこんなところかな。みんないっしょうけんめい考えて、たくさんでたね。

先生は、みんなのことをなまいきだと思ったよ。本当は、ちゃんと思ってるのに言ってくれない。

『みんな、なまいきだ。』

今から、このいくつか出て来たものをまとめてみたい。もう一度、読んでみるよ。

(子どもから出て、板書されていることを読み、確認する。)

十二個出ているよ。十二個をいくつかに分けてみたい。

Ty なかまづくりみたいなのだよ。

Tt これとこれは似ているなというのだよ。

C6 「さからうことである。」というのを、「おとうとのくせに……。」と「いもうとのくせに……。」といっしょにする。

C3 「だまれと言われること。」と「文句を言われること。」

Tt はい、他には。もつとまとめられるよ。

Ty 他は、みんな一人ぼっちかな。

C6 「一人じめにする。」と「みんなでするはずのことを……。」

Tt みんなもそう思う。これとこれとこれ、三つでもいいよ。

C6 「いばることである。」と「むきになって……。」

C17 「いやなことである。」「ちよつとしたこと……。」

Tt 残っているのはこれだね。「負けの時相手に……。」だれだっけ言ったの。あっ、君は負けた時に、何という。どこに入れたらいいかな。

C6 「いやなことである。」

Tn 「いやなことである。」とくっつけるんですよ。

Tt これで一応、まとまりが出来たかな。

さて、こういうまとめ方をしたけどね。それを考えていこう。「なまいきとは、いもうとのくせに……。」のグループから見よう。こんなふう

に、なまいきだと思ふ気もちは、どこから出てくるんだろう。なぜ、そんな気もちになるんだろう。

C3 くやし。

Tt 気もちを言いあてれば、いいんだよ。他のところをやってみよう。

「なまいきとは、一人じめ……。」の

グループだよ。こういう、なまいきは、どういう気もちから……。

C6 にくたらしい。

Tt 他には。

C2 いやなかんじ。

C3 やっている人を悪いと思う。

Tt じゃね。これやってみましょう。

「なまいきとは、いばること……。」のグループ。これは、どうでしょう。おかあさん、おとうさんに、むきになって言ったことない。あるんなら、なぜ、むきになるのかな。

C9 にくたらしい。

C10 自分勝手に、どんどんいっちゃうから。

C6 「くそ。」という気もちから。

C3 へんなことを言われるから。

Tt じゃ次ね。「なまいきとは、文句を言われる……。」のグループね。これについては、どうですか。どういう気もちから、こういうなまいきがおこるのかな。(出ない。)

Tu おじさん、よく出るなと感心している。みんな先生方も感心してると思う。で、今、一つだけ緑が残ったね。特に、緑の所は難しいんだよ。がんばれ。

C6 「生まれ。」と言われると、「う

るしゃー。」とらう気もちになる。

C3 ちくしょう。

C3 文句を言われると、生まれと言

う。

Tt じゃ、「なまいきとは、いやなことである。」のグループ。これは、どんな気もちからだろう。

C2 向こうも、こつちをにくたらしいと思ってる。

Tt すごいよ。相手も自分のことをにくたらしいと思ったから言う。どういうことから出てくるのか。こんなこと、なまいきだなんて、今まで考えたことなかったでしょう。他にはないかな。みんな、よく考えているな。目を見てると、よくわかる。

はい、よくここまで出て来たね。今まで考えたことなかったでしょう。それではね、なまいきとは、どういう気もちから出てくるかがわかった。それで今から、テープに録音したお話をみんなに聞かせます。

Tu ちよつと待って。みんなが、すぐできるからね。最後の一つだけ……。できるか、できないか、わからないけれど、やっぱり、きいておきたいと思う。

一番下に出したやつを仲間で分けて、こうくくつたね。できるか、できないか、わからんけれども、上に出たやつ、五つの箱を、ならべておいて、だんごをくしぎし出来るよう

なものが見つからないだろうか。なまいきっていろいろのは、これが基本なんだ。これが基で、なまいきっていろいろのは、おこるんだ。つていうふう

に、これを一つに、くしにさしてしまえたら、なまいきっていろいろのはこれだ。なまいきの基はこれだ。というのが、わかるかもしれないから、考えてみてくれないかな。

(まとめたものを確認して読む)

これが基本なんだ。というもの。人間の心には、これがあるから、なまいきっていろいろのをやるんだっていうものだよ。

C1 人がやることについて、自分が思

う気もちが、一つにまとまった時に

できることばだと思えます。

Tt もう一度、言ってみてくれないかな。

C1 人がやることについて、自分が思

う気もちが一つになってあらわれた

ことばだと思えます。

C3 人間の心の中には、絶対一つは

短気があるから。

Tt 他には、ない。これを全部くしぎ

しにするものが出たんだよ。出るとは思わなかったのが出たんだよ。

これからテープを聞かせます。女の子が出て来ます。ツネという名の女の子です。それから、その友だち

のヒロシっていう男の子が出て来ます。他にも出て来ます。これから、

お話を聞きながら、ツネという女の子のなまいきをみつ付けてください。よく耳をはたらかせてね。

(プリント配布)

題名は、書いてあるとおり「海とうなぎ」です。うなぎって、どこに住んでいるの？海にいるの？うなぎって、川にいますかね。題名は、深く考えなくてもいいです。これから考えるのは、ツネという女の子のなまいきなところをみつ付けることだよ。(テープを流す)

さあ、ツネという女の子のなまいきな所、だけ言おう。ツネは、非常になまいきなことを言ってるんだよ。それをみつ付けてごらん。

Tu 後で、俺もそうだったんだ。なん

て人がいないだろうけど。答える前に、線を引いたらどう？

Tt ここにツネのなまいきが出てる所

に、一ヶ所だけだよ。ツネはね、すぐなまいきなこと言ってるんだよ。

(線を引く)

一人一人言ってもらいましょう。

C11 「だめだよ、それより兄ちゃん

を……。」

C12 「おにいちゃんが、つかまえたの

よ。」

C13 「でも、ヒロちゃんのお父さんが子ぎずう。」

C14 「と同じ。」

C13 二枚目の最後から四行目の「それはそうだけどき……。」

C11 「と同じ。」

C15 「ヒロちゃんは、浜ちゃんといっしょにうなぎをつかまえたって……。」

……。」

C10 「兄ちゃんがかまえたのよ。」

C9 「なんで柚木さんへやるんだよ。」

C15 「あ。」

C16 「と同じ。」

C14 「まだ、書いていない。」

C17 「お兄ちゃんが、つかまえたのよ。」

C16 「父ちゃん、浜ちゃんが水まきをやめて……。」

C17 「浜ちゃんが帰ってくればわかるよ。」

Tu ツネのなまいきを一つみつけようと言ったのになんか出ちゃったね。こまっちゃってるんだ。こっちは……。」

じゃ、休憩しよう。

※子どもたちは、最初の緊張がほぐれると同時に、「なまいき」に

ついて全身で考えていた。「なまいき」以外のことは、何も考えていなかった様で、休憩になると、死んだように、ぐったりしている子どももいるほどだった。

Tt (子どもから出たツネのなまいきを確認。)

ツネのなまいきを一つだけと言ったらこんなにくさくさな感じがした。みんな、もう一度、夏休みに、このプリントをよく読んで、絶対これしかないという所を探して来てください。その後、このつづきを山田先生がやるそうです。

もうちょっとだけ。ヒロシ君のなまいきを探してみよう。さつきと同じように線を引いてごらん。

Ty 二枚目の真中あたり——「ツネは、たばこ屋からの帰り……。」——からテープを聞かせます。

(子どもたち、必死にプリントを探し、聞いている。)

Tt はい、いいかな。

C11 「あした土曜すら……。」

Tt ここと同じ人。」

C13 「おら、いらないうだけ……。」

Tt ここと同じ人。」

C18 「そりゃ五時間くらいだ。」

C13 書いてないんだけど、ヒロちゃんが浜ちゃんといっしょにうなぎをつかまえたと言ったこと。

C17 「川尻まで行くかもしれん。」

Tt ヒロシのなまいきの、いちばんとびきりなまいきだというのが一つだけ、ツネの中にも一つだけあると思う。夏休みの間に、よく考えて来てもらいたい。

Tu よく、暑いのに勉強したね。今日、来ていらっしゃるのは、みんな小学校の先生ですから、自分の学校の子たちに話をされると思います。そして、今日、勉強したことを、各学校で授業されると思う。今日、宿題がでたね。がんばってください。

おじさん一つ言っておきたいことがある。今日、「なまいき」の勉強をしたね。ふつうだったら、「なまいき」は、いけないっていわれてたね。でも、「なまいき」っていうのは、全部いけないというわけではないんです。これは、「なまいき」だな、してはいかなとばかり思うことはないんです。今日、「なま

いき」について勉強して、これだけみんなが出してくれたでしょう。もし、みんなが、「なまいき」っていけないものだって決めてかかっているなら、こんなに出ないと思う。みんなが、日頃、「なまいき」について考えているからだと思うんです。これからも、うんと考えてね。「俺は今日、『なまいき』なことをしたかな。今日の『なまいき』は、だめなまいきだったんだらうか、いいなまいきだったんだらうか。」と考えてやってほしい。今日、先生方みんながほめてくれたでしょう。「なまいき」なことをしてはいかんと決めてしまっただけじゃないんだと、おじさんなんか考えている。大人が喜んでくれる「なまいき」だって、たくさんある。りっぱな「なまいき」だってたくさんあるんだね。こんなに暑いのに、こんなに一生懸命勉強するんだって、そもそも「なまいき」だよ。それをやったんでしょ。そうすると、みんなの頭は、だんだんよくなるんだと思います。

※ 文中Tt、武村昌於(玉川学園小・教諭) Ty、山田貴洋子(静岡・葎山町立葎山南小・教諭) Tn、中川節子(町田市立成瀬台小・教諭) Tu、上原輝男(玉川大学教授)